

「HSK 季刊わたぼうし」第54号

発行者:わたぼうし連絡会

発行日:2001年(平成13年) 7月3日 '01夏号

第54号のテーマ 「私の介護体験 Ⅲ」

原稿を 棒読みしない 小泉節

光男



この機関紙は障害のある人、ない人が自由に考えを出し合い、主義・主張を越えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

テーマ・私の介護体験Ⅲ

障害者の方々も平成15年度(2003年)より福祉サービスが現在の措置制度から支援費支給制度へと移行されます。「HSK季刊わたぼうし」も徐々に上記の制度に向けた介護サービスについての情報、ご意見、提言等を載せていきたいと思っております。皆様のご意見をお待ちしております。

私たち「福祉用具選定相談員」の役割

オークス事業株式会社・福祉用具選定専門員

日本社会は、「高齢社会」「少子化」「ピラミッド型人口構成からドラムカン型人口構成比」と、高齢化の進展に伴って寝たきりや痴呆の高齢者が急速に増えることが見込まれている現在、介護を必要とする期間の長期化や介護をする家族の高齢化などと、生まれるべくして生まれた「公的介護保険」が平成12年4月から導入された。

介護保険制度とは、「寝たきりや痴呆になった場合」の介護を国民全体でサポートし「ご家族の介護労力の軽減」「患者本人の生き甲斐を創出できる環境作り」を大きな目的として行う社会保険方式です。《すでに現在、医療保険（健康保険等）、年金保険（厚生年金）、雇用保険、労働者災害補償保険（労災保険）といった社会保険制度があるが、「介護保険制度」は日本における5番目の保険制度です。》では現在の状況を数字で調べてみます。

1. 石川県内の高齢者数（65歳以上）は？

- ・県内約211,000人で総人口の18%（これを高齢化率という）で、平成27年(14年後)には約25%（高齢化率）4人に1人が65歳以上の高齢社会を向かえます。いわゆる「団塊の世代」といわれた方々の領域？です。

2. 介護者の半数近くが高齢者？

- ・「老老介護」の理由

65歳以上～74歳未満の介護者	28.3%
75歳以上の介護者	17.8%

計47.4%で2人の1人が65歳以上で「老老介護」といわれる理由です。

3. 介護者は女性が中心？

- ・介護をする方は男性比率 13%女性比率では81%で8割以上が女性であり、介護者の負担が女性に重くのしかかっています。

4. 介護の期間の長期化？

- ・介護を要する期間が3年を超えているケースが全体の約半数を数えます。

1年以上3年未満	27.6%
3年以上	50.4%

等々の世代背景があります。

ではこの「公的介護保険」の中心的役割でケアマネージャーとは？

ケアマネージャー（介護支援専門員）の役割

・認定審査のされた人のうち、要支援・要介護1～5と認定された人は、介護保険でサービスを受けることができますが、そのためには介護サービス計画（ケアプラン）を作り、その計画に沿ってサービスを受けることになります。介護サービス計画は、利用者やその家族が必要なサービスを要介護度に応じて使える金額の範囲内でうまく組み合わせられたものでなければなりません。介護サービス計画は本人が作ることもできますが、ケアマネージャーと呼ばれる専門家に相談し一緒にサービス計画を作ってもらうことができます。

・認定を受けた利用者が利用できるサービスに在宅サービス（訪問系サービス、訪問介護・訪問入浴・訪問看護等々）（通所系サービス／通所介護・通所リハビリ等々）（福祉用具貸与、購入・住宅改修）の18種類と。施設サービス（指定介護老人福祉施設）（介護老人保険施設）（指定介護療養型医療施設）等の4種類、計2大項目あります。

私たちの役割（福祉用具選定相談員）

以前洗濯は洗濯板でやっていたものがいつのまにか「洗濯機」に変わり、台所では炊飯器や冷蔵庫を使うように私たちの暮らしを、より快適により便利にする生活必需品があります。私たちは、自宅での介護を望んでいる多くのお年寄と、ご家族をはじめとする介護に関わるすべての人にとって使いやすさや介護する人の負担を軽くするものを提供します。特に「特殊電動ベット」「車いす」「床ずれ予防用品」の貸与（レンタル商品）はもちろん、「排泄・浴用用品」の償還払い商品【購入費用をいったん全額自己負担し、市町村役場へ領収書等を添えて申請（購入業者が代行する業者もあります）すると、保険給付分（9割）があとから支給されます。（1割は自己負担）】や、「住宅改修」（ミサワホームグループ企業とタイアップ）等にも力を入れております。

できることは自分でやろうというお年寄の自立、そして介護を続けるご家族のおもいやりの為に。私たちは福祉用具を通じて暮らしの中の介護を応援いたします。

最後に「わたぼうし」の関係各位をはじめご拝読いただいた皆様方のご活躍を心からご祈念申し上げます。

障害者の自立に向けて

介護保険が始まって1年。介護から介助へ。

ハートワーキングセンター長
ボランティア活動研究所所長
須戸 哲

介護保険が始まって1年が経過した。当初、予想されていた混乱も、そんなに目立たず、無難な1年のようなだった。本当は様々な問題があり、それが顕在化していないだけなのだが。この介護保険が平成15年から障害者にも適用されると、どうなるのでしょうか。

まず、介護という考え方は障害者にそぐわないと思う。介護の護は守るという意味で、主体的自立的に生活を組み立てようとする、と、介助という言い方のほうがふさわしい。単なる言葉遊びのようだが、このことは重要である。生活を障害者自身が組み立てるか、介護者に委ねるのかの境目である。このことから障害者の介護保険を考えていかなければならないし、もっと言えば、介護保険があろうがなかろうが、障害者自身の生活はこの視点に立つべきである。外出する時、何か行動を起こそうとするとき、介助者が親であろうとボランティアであろうといっしょである。障害者自身の組み立てた意見で行動をすることが大事である。特に石川県の障害者を見ているとこの部分に甘さを感じる。

私たちの作業所「ハートワーキングセンター」では今年度に入って4月5月だけで3名の通所希望者が面接に来た。最初の1回目だけ、親と同伴で来ていただくが、そのときも本人が通所する意志があるかどうかを重要視する。3名とも意欲に溢れた方なので、受け入れたが、親の顔色を見て話しをするようだと、正式な通所は認めない。それは本人の将来のためである。親が横について意見を言わないと意思表示できないのなら、本人にとってこれほど不幸なことはない。何か行動をする時でも同じである。自分達でボランティアを組織して、事を行うようにならなければいけない。親や施設職員が付き添わなければ、何も出来ないようなら、本当の介護保険になってしまう。名前は介護保険でも、自分たちのやる気で介助保険にできる。それがこれからの障害者の生きていく道だと思う。

以下のお二人は、編集者が3月に富山で行われたピア・カウンセリング講座で出会った方です。

介助中のエピソード 地域住民・肢体障害 ピア・カウンセリング講師

今か4年程前のことでした。当時、自立生活プログラムのリーダーとしてお出かけプログラムを計画しました。内容は、上野公園に行き動物園や美術館を探索することになり、予定通り僕は介助者と一緒に車いすに乗り出かけました。

無事、上野公園に着き昼食も終わり不忍池でアイスクリームを買おうとした時でした。割と金曜日なのに人が多く込んでいたこともあってか介助者が急に「僕、気分が悪くなっ

たから帰ります。変わりの介助者を呼んでください」と告げられました。僕も急に変わりの介助者を探すのは不可能でした。

そこで、どう気分が悪いのかを聞いてみると「元々僕は精神に障害があり、特に人込みが弱く外出介助はだめなんです」と言われ、もちろん初耳でした。前もってそういう情報を聞いておけば頼みませんでした。見た感じは健康そのもので疑う余地也没有せん。

とにかく帰られては困りますので、ピア・カウンセリングの心得がありましたので、介助者の気持ちを聞き出して落ち着かせることに心掛けました。1時間ほど話を聞き、なんとか気持ちを落ち着せてくれました。そして無事家に帰ることができ、メデタシメデタシでした。

こういうことが今後もあり得るかも知れませんが、介助者がどんな人が情報をできる限り聞き出すことが大事だと思つづく思いました。

私の介護体験

視覚言語発声障害・ピア・カウンセリング受講生

私は1種1級の視覚言語発声障害者である。現在はパソコンに内蔵された音声装置でパソコン上の画面を聞きながら、パソコンを使い、多くの人とコミュニケーションを図りながら、また、その一方で多くの人の支援とご協力によりとても楽しい大学生活を送っている。

主な介助内容としては、学校から配布されるテキスト、あるいは資料等の点訳、そして必要な書類の代読、代筆、さらに発言権を保証していく上での通訳などがあげられる。もちろん、これらすべてが公的に保証されているわけではなく、特に、コミュニケーションの保証といった問題については未開拓の部分が多いため、改正する必要があると私自身一人の障害者として感じている。

ところで、最近では、まだまだ改正点が山積している形ではあるものの介護保険の導入に伴い、国民の福祉に対する関心の高まり、そして福祉の世界ではようやく『利用者の主体性』『利用者の自己決定権』、もっと言えば『当事者の権利や人権』と言ったことにも高い関心が寄せられている。

そんな時だからこそ、私たち障害者が積極的に、いろいろなところからメッセージを発信していくこと、あるいは主体的に制度改革をしていくことを求められているのではないかと思う。そしてそれが最終的には制度を変え、社会を変革していく一助になると良いと思うと同時に、そのことが、国民一人一人の幸福追求に繋がれば良いと私は考える。

■「あんた、まだ生きとったんけ？」

驚くような言葉を耳にした。富山県新湊市のある漁村でのこと。Aさんはリウマチを持つ60才の女性。子供3人を産んでからリウマチの障害が進行し外に出なくなった。台所仕事さえままならなくなり、3人の子供たちも外に嫁に行き、旦那さんも腎臓病のため介護しにくい状況であった。

そんな時、定期的にリハビリと治療に通いたいということで、他人の私に関わることになった。そして、外出のため、車の乗り移るまでぼんぼ（おんぶ）して外に出た時、通りかかった近所のおばさんに「あんた、まだ生きとったんけ？」と声をかけられた。

驚いたのもあったが、背筋が凍るような思いがした。背中にぼんぼしたAさんは泣いていたような気がした。

しかし、それからAさんはよく外に出るようになった。Aさんの旦那さんも「出んにゃあかん」とはっぱをかけたこともあるが、出ること自体が楽しくなったようだ。

やっと外に出ることが億劫でなくなった頃、Aさんは外出先の病院で脱水症状になり、その後亡くなってしまった。

■障害者宅に居候をして

富山市太田という農村でたばこ屋を営むBさんは筋ジストロフィーの障害を持つ30代後半の男性。約90kgの体重で自分の力では体位を変えたり、トイレや風呂に入ったり、移動することができない。もっぱら介護は70才の母親と嫁に行ったお姉さん。そのBさんの家に約5年ほど居候した。

丁度居候する前頃に、Bさんのお父さんが倒れ、夜介護する人がいなくて、何度か介護に行っていた。「もう親父だめかもしれん。あんた、住み込みでこれんか？」と相談があったのはその頃だ。住む場所もこだわっていないし、お金もない身だったので、簡単に「ああ、いいよ」と返事をして程なくお父さんは亡くなった。そして5年も住んでしまった。

私の知らないところでは、Bさんを交えた家族・親族会議が開かれ、他人が家に入るのはいかがなものかという議論がされていたらしい。しかし、最後はBさんが「施設でなくここで生きたい」と主張したことで何とかなったようだ。

■他人が関わる意味

以上の2つの経験を通して、家族にどれだけ介護の負担がかかっているのか、介護する側も高齢化や病気などで介護が難しくなり、でもやらなきゃ…みたいなことのはけ口を作らなければいけないと感じた。他人が関わること、しかもできるだけ多くの人がいろんな形で関わるということが共に生きることなのではないか。

褥瘡（じょくそう）とは

褥瘡（じょくそう）とは、皆さんもよくご存じの「床ずれ」のことです。

これはいろいろな病気やその後後遺症のため、自力で身体を動かすことが出来なくなってしまった状態(いわゆる寝たきり)の方にしやすい皮膚の潰瘍(ただれ)です。と、教科書などには書かれています。

でも、寝たきりの方ばかりが褥瘡を作ってしまうわけではなくて、例えば自力で体を動かすことができたとしても、移動は常に車いすであるという方は、褥瘡とはいつも隣り合わせであると考えた方がいいでしょう。中には"ちょっとした油断で……"という経験者の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

いきなり結論を述べますが、褥瘡は一度できると治すのがとても大変ですから、自分の身体がどのような状態に置かれているかを認識して、褥瘡を作らないように予防することが一番大切なことなのです。

皮膚の仕組みについて

まず皮膚の仕組みについて少しお話ししましょう。

皮膚は身体の表面をおおっている幕のことで、大きくわけて表皮・真皮・皮下組織の3つの層からなっています。それぞれの層にはいろいろな働きがあります。

その働きとは、保護・分泌／排泄・体温調節・知覚・呼吸・再成・吸収・ビタミンDの合成などです。

このような機能のおかげで、内臓や筋肉は損傷から守られているのです。意外と皮膚ってすごいんだなと思いませんか？

褥瘡はなぜできるの？

では、褥瘡はなぜできるのでしょうか。

答えは簡単。長時間の圧迫によって血液が流れなくなり、皮膚に酸素や栄養が届かなくなったからです。"そんなこと知ってるよ"という声が聞こえてきそうですが、皆さんの生活の中で思い当たるふしはありませんか？

通常人間は、寝ている時に無意識のうちに"寝返り"という形で除圧しています。ところが、寝たきりだったり障害のために、痛み・しびれを感じない場合は、褥瘡ができる危険度は高くなります。

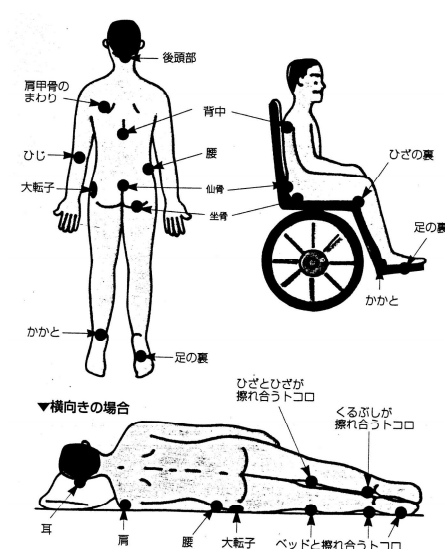
寝たきりの方の場合は、自分でケアできないだけに誰かの手を必要としますし、車いす生活の方の場合は、例えば、何かに熱中していつい時間忘れてしまって、気がつくとなら大変！ てなことになってしまう。そのあげく、「車いすに乗りっぱなしだったんじゃないの？」「ちゃんとプッシュアップしてなかったでしょう」などと、手厳しくやられちゃうんですね。自分で分かっているだけにこたえるんです。で、その時はすごく反省するんですが、喉もと過ぎると忘れてしまうのが人間、同じことを繰り返してしまう方の中にはいらっしゃると思います。つらい思いをするのはご自身ですから、これを機会に生活ス

タイルの見直しをしてみてもいいでしょうか。

褥瘡がしやすい場所とは

次に、褥瘡がしやすい場所とはどこかを考えてみましょう。

基本的に、骨の出ている部分にしやすいと思って下さい。例えば、仰向けに寝た状態の場合、体の重みは圧力となって、頭部（あたま）・肩甲骨（かた）・仙骨部（おしり）・踵部（かかと）に集中します。人間の身体の形を思い浮かべるとよく分かると思います。また、身体の向きによって、圧力のかかる場所が違ってきますので悪しからず。



(本からコピー)

褥瘡ができる原因

褥瘡ができる原因ですが、これには3つあります。

1. 全身的要因・・・①低栄養、②やせ、③加齢、④基礎疾患
2. 局所的要因・・・①加齢による皮膚変化、②摩擦・ずれ、③湿潤
3. 社会的要因・・・①ケアの人手不足、②経済力不足、③情報不足

これらが複雑にからみあって、褥瘡をつくっていきます。

褥瘡を予防するには

それでは、褥瘡を予防するにはどうしたらよいのでしょうか。ポイントを以下に挙げます。

①皮膚を観察する

- ◎よくとる体位の骨の出ている部分
- ◎身体の向きを変えた時に赤くなっている場所がないか

②褥瘡発生を予測する

- ◎ブレーデンスケールで採点する(紙面の関係で割愛します)

③褥瘡の原因である圧迫を取り除く

- ◎体位変換や用具の活用
- ◎プッシュアップの徹底
- ④皮膚を保護する
 - ◎皮膚を湿った状態にしない
 - ◎摩擦とずれを避ける
 - ◎入浴や清拭で皮膚の清潔を保持する
- ⑤本人や家族が褥瘡に対しての知識を持つ
 - ◎専門職(保健婦・看護婦・介護福祉士etc)の指導を受ける
 - ◎地域の介護教室に参加する

褥瘡ができてしまったという場合

さて、褥瘡ができてしまったという場合、一体どうすればよいのでしょうか。

自己診断せずにまずは病院で見てもらいましょう。そこで適切な指導を受け、必要なことは守りましょう。

褥瘡はやはり怖いものです。褥瘡そのものが治るのに時間がかかることは前述しましたが、その褥瘡に菌が感染してしまったらもっとやっかいなことになります。そうすると、入院での治療が必要と言われてしまう場合も出てきます。さあ、「治療」と「予防」あなたはどちらを選びますか？

最後に

というわけで、簡単ではありますが、褥瘡のお話を一通りさせていただきました。最近では優しいHow Toものが出回っています。もっと詳しく知りたいという方は、本屋さんのぞいてみるのもいいと思います。

皆さんが毎日を快適に楽しく過ごせるように、少しでもお役に立てれば幸いです。

それから、長い間原稿を待っていただいた桶屋さんには、この場をお借りしてお詫びとお礼を申し上げます。

ピア・カウンセリング講座に参加して

障害者支援施設 利用者・編集委員

初めての福祉公開講座に参加しました。それは、自立生活支援センター富山が主催するピア・カウンセリング講座です。

1月の予定が大雪で3月に延期になったのですが、また3月にはめずらしく大雪が降り参加できるか心配でした。

青山彩光苑から移送サービス業者を利用して会場の富山県女性総合センターへ行き2泊3日の講義を受けてきました。

受講者の中で施設に入所しているのは、私だけでした。他の受講者から「よく、施設から参加できたね。富山の施設は自由に外出ができないから、施設を出てアパート生活をしているんだよ。」と言われました。

私より重度なのに、アパートで自立生活をしている人ばかりでした。自分が施設で甘い生活を送っている情けなさを知ると同時に、ピア・カウンセリング講座に参加することを勧めてくれた青山彩光苑の指導員の方々に感謝します。

この「HSK季刊わたぼうし」も施設の中にいる限り、閉ざされた狭い範囲の紙面内容に止まり、社会の流れを取り入れた紙面を作ることにはできないと思っています。自分の体験していないことは伝えることはできないと思います。

さて、ここで「ピア・カウンセリング」の意味を説明しておきます。以下は「自立生活支援センター富山」のホームページより引用。

"ピア"とは、「同じ立場・同じ背景を持つ者同士」という意味。ここでいう"ピア"は「障害を持っている者」まだまだ北陸の地では知られていません。

「ピア・カウンセリング」って何だろう？カウンセリングというと固いイメージを持つ人たちが多いと思いますが、そんなことはありません。

障害を持っている者同士。お互い話すことで自分を解放していく。今まで自分が持っていたもやもやした気持ちや感情もなくなっているかも…。

最初にイメージをしていた講座とは違い、講師と受講生が円を組んで講義が続きました。途中で2人組になってセッションが行われるのですが、これがとても難しいです。お互いに決まった持ち時間に今までに障害を持ってよかったことやいやだったことなどを話し、相手の話を聞くということがピア・カウンセリングの基本です。

ピア・カウンセリングは一般の相談業務とは異なり、クライアント（相談者）の問題を解決することはしません。お互いを理解することが目的です。

今後はこのピア・カウンセリングが重要視されてくると思います。私も今回の講座に参加して、ピア・カウンセリングのだいたいのイメージをつかむことができたので、次回の講座からは、一歩でも前進できるように頑張りたいと思っています。

石川県では講座が開かれる予定は今のところありませんが、自立生活支援センター富山では今年度も講座を開催の予定です。

問い合わせ先

〒939-8075 富山市今泉312
富山生きる場センター内
特定非営利活動法人
自立生活支援センター富山
☎ 076-491-3385

「自立生活支援センター富山」について

自立生活支援センター富山」事務局長Y.A

『自立生活支援センター富山』は、昨年5月に富山で初めての自立生活センターとして設立し、11月にNPO法人として認証されました。

主な活動としては、まずひとつにピア・カウンセリングがあります。「ピア」とは、仲間や同じ背景を持っている者同士という意味があります。ここで言うピアとはもちろん、障害を持っている者同士ということです。あと、「カウンセリング」というと医療的なイメージが強いですが、そういうことなく障害を持っている人同士が対等な立場で話を聞き合うことを言います。当センターでは今、ピア・カウンセラーを誕生させるべく全国各地に講座を受けに行っています。また、3月8日～10日には北陸では初めとなるピア・カウンセリング集中講座を行いました。10人定員で募集をかけたのですが、スタッフの間では「5人も集まってくれるかなあ・・・」



という会話が飛び交っていました。しかし、ふたを開けてびっくり！9人の方の参加がありました。富山、石川の方が大半を占めるなか、遠くは鹿児島からの参加があって、嬉しい気持ちとうまくいかなかったら・・・という不安の中での講座でしたが、終わってみれば参加していただいた皆さん同士で連絡先を交換しているのを見て、最初の頃にあった不安や緊張がスーッととれたのをよく覚えています。

活動内容の話に戻りますが、2つ目には自立生活プログラムです。これは、自立生活をしていくために必要な経験などをその人1人1人に話を聞き、プログラムを作り提供します。

実際の例では日頃、親とは出掛けるけれど1人ではあまり外出しないので電動車いすで何処かに行きたい、ということだったのでノンステップバスに乗り富山駅周辺で買い物をし、ご飯を食べてきたということ等があります。

3つ目には、ガイドヘルパー派遣サービスです。外出時のガイドヘルプは勿論、その際に必要な送迎も含めてやっています。今までには、忘年会や新年会の飲み会やモーニング娘。のコンサート、子供さんの学校行事等での利用があります。



最後に、講師派遣・福祉教育プログラムです。これでは、主に小・中学校の総合的学習の時間で物質的・法的・心の3つのバリアについて寸劇や、体験を通して話をしています。また、最近は社会福祉協議会等からも依頼が来るようになりました。内容も、ボランティア講座やピア・カウンセリングについてと、幅も広がってきています。

5月には、自立生活支援センター富山が設立して1年になります。今後も精力的に活動を行い、いろんな所との輪を広げていきたいと思っておりますので皆様のご支援・ご協力よろしくお願いいたします。

ピア・カウンセリングがどうして誕生した？

厚生労働省が障害者当人をサービス提供者として、専門家として位置づけるという意味で、初めて正規職員として国の税金を使える対象にした。看護婦、社会福祉士などと同様に、障害者のピア・カウンセラーという位置づけで給料が取れるようにした。

病気を診ず人間を診よ

肢体障害・障害者支援施設 利用者

「白き黄昏」は、しらゆり会会長の登谷栄作先生の近著である。登谷先生は傘寿を迎えられた開業医だが、赤ひげ先生とも呼ばれ、地域住民の辛抱を一身に集められた医師としても知られた方である。

「白き黄昏」は、医師としての使命感と倫理観に裏打ちされている。近年の医学の進歩は目覚ましいものがあるが、ややもすれば延命治療に傾きがちと言われる。この本は「病気を診ず人間を診よ」と述べている。生老病死から説き起こし、いのちの尊厳、末期医療、無償の功德、医療と宗教、病と死の文化、非核平和運動、称名念仏申すべしなどなど、医師としての長年の体験と古典、先人の教えから学んだことが、分かりやすく書かれている。

白き黄昏 ～老いて白道を行く～

登谷 栄作著 発行所：北國新聞社 定価：(本体1,600円＋税)

特定非営利活動法人 三美会

「特定非営利活動法人 三美会」事務局長

(特)三美会が中島町の移送サービスを開始して、もうすぐ2年を終了しようとしています。この間、約500名の虚弱な高齢者及び身体障害者の方が、利用会員に登録されました。利用回数も平均で1ヶ月約900回を超えています。移送サービスを始めたのは、高齢者の在宅生活を支え、医療・保険・福祉サービスの格差を埋めるために何をすべきかと、医療福祉に携わる仲間と話す中で、とりあえず通院や買い物で困っている知り合いの高齢者に利用してもらうことからでした。

利用してもらいながら、これから大事業者ではできない、または、してもらえないサービス事業を探していこうと思っていました。しかし、利用会員が4月だけで75名、5月も35名とすぐに100名を超え、1台の車両では、対応できなくなるほどでした。『うちに車が何台あっても、病院に行きたいときに、今まで行けなかった。』とか、『お陰様で、いつでも行きたいところへ行けるようになった。』『いつまでも、サービスを続けて欲しい。』という言葉聞くにつけ、高齢者の方が通院することがこんなに大変だったのかと改めて知りました。特に人工透析のために週に3回通院される方などを送迎するようになって、余計に移送サービスに対する期待の大きさを知りました。ただ一方では事業として、安全、便利、継続を持続していく上での採算面や、職員の管理等を考えると、不安定要因や未解決のままの問題もたくさんあり、私の悩みも尽きません。

三美会は特定非営利活動法人(NPO法人)として、石川県で2番目に認証を受けました。同じNPO法人でも、市民活動を長期間継続してきた法人化した団体等に比べて歴史もなく、その分だけ蓄積されたものも少ない三美会です。しかし、高齢者や障害者、またはその家族の方をいつも見ながら、必要なサービスを事業化し、継続し続けるには、何をどうしたらいいのかを追い求めながら、私も三美会もこれから成長していきますので、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。最後に利用方法を説明します。

・三美会の移送サービスは

会員制で年会費は2,000円。

・車いす、ストレッチャーを利用する

7km以内は1,000円 1kmごとに200円

・自立して乗車できる人

5km以内は500円 1kmごとに200円

利用料の計算は利用者が乗車してから目的地までの距離です。配車等に利用料は入りません。高速代や駐車代が必要な場合は実費が必要です。

利用目的は通院でも買い物でもかまいません。前日までに予約が必要です。急に利用したくなったときは、ちょうど車が空いているときは、何とか都合をつけるようにはしますが、難しいことも多いので、あまり期待せず、電話をしてみてください。

NPO法人三美会の住所

〒927-0453

石川県鳳至郡能都町字鶴町11-1

☎ 0768 (62) 8686

FAX 0768 (62) 8687

中島 0767 (66) 0405

七尾 0767 (52) 2486



私のホームページ

このコーナーは福祉関係の情報を発信している方々のホームページを紹介します。あなたのホームページの紹介を600～800字程度にまとめて、お送り下さい。

ゆずっちゃんこんにちは

地域住民・肢体障害

<http://www16.freeweb.ne.jp/diary/yuzu35/>

私は学校卒業後、交通事故にて半身マヒの障害を負いました。足が悪いので自宅でパソコンに、向かうことが、多くなり、インターネットで、話ている（チャット）うち、ネットのトモダチも増え、それを、きっかけにメルトモとの交流を、目的とする（掲示板・チャットルーム付きの）ホームページを作りました。ちなみにタイトルの「ゆずっちゃんこんにちは」は、私のハンドルネーム「ゆずっこ35」から、きています。

ホームページについては交流目的なので最低でも掲示板をつけたいと思い、CGIを勉強してFTPは、最初むずかしいですが知ってしまえば、あとは「ひながた」通りです。知っての通り、レンタルホームページ見てチャットルームもつけました。ただチャットルームはメモリをくうので、すぐ落ちるという反面もありますが……

移動サービスを行うための委託事業と研修の仕方

日 時：2001年7月8日（日）

時 間：午前10時30分～午後4時まで

場 所：サンフォルテ 303号室

〒930-0805 富山市湊入船町6-7

☎076-432-4500

主 催：北陸移動サービスネットワーク

- ・(NPO法人) 自立生活支援センター富山
- ・ふくい愛の実行運動の会
- ・(NPO法人) 自立生活センター「ハートいしかわ」(日本財団)

10:30 第1部 講演会

テーマ：各自治体の送迎委託サービス事業を受けて」

講 師：金澤 哲夫氏（愛知県ハンディキャプ連絡会 副理事長）

内 容：ネットワークづくりと委託事業を受けるまでの経過と
受けて以降の現状と課題について。

12:00～13:00 昼食休憩

13:00 第2部 講習会

テーマ：移動サービスを行うための研修会のあり方について」

講 師：金澤 哲夫氏

内 容：移動サービスを行うにあたり、どういう研修を行うことが必要なのか。
どういう事を重点に行えばよいのか。

14:00分～14:10 休憩

14:10 第3部 パネルディスカッション

テーマ：どうすれば、外に出やすくなるだろうか

内 容：北陸の現状を考えた移送サービス

とは。また制度的活用やどんなバックアップが必要なのかをサービス提供者側と利用者側から出してもらおう。そんな話を出して頂けたらと思います。全国的な事例も参考に。

パネラー：

四谷 暢宏さん

（富山のサービス利用者）

中村 裕さん

(「ハートいしかわ」サービス提供者)
渡辺 菜美さん
(「パートナー」サービス提供者)

参加対象：障害者、高齢者の生活支援並びに移動支援に関係し、興味のある方

参加費：500円（資料代等）

当日のお弁当（600円）を用意しますので必要な方は別紙申込書にて合わせてお申込ください。

北陸移動サービスネットワーク事務局

〒921-8021 金沢市御影町8番32号

（NPO法人）自立生活センターハートいしかわ

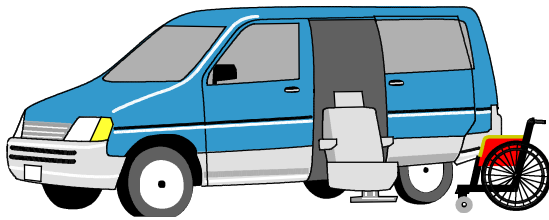
☎ & FAX：076-242-1172

開催地事務局・お問い合わせは

〒939-8075 富山市今泉312

（NPO法人）自立生活支援センター富山

☎076-491-2265 FAX：076-491-3385



本の紹介

トットちゃんとトットちゃんたち

著者：黒柳 徹子 発行所：講談社 定価：1,575円(税別)

アメリカのメディアマードック氏は「メディア(ここではテレビニュース、番組等の報道はショー(見せ物)である」とテレビで語っていた。所詮それは興味中心で、真実、大切なこととは、少し離れており、見なくても別に損にならず、見せ物程度であるとよくぞ正直に語られたと思う。加えてみる側の、読む側の興味が優先であり、これも商売なのだというのである。

この本は違う。私はこの本を保育園児に写真（OHPで）（本文記載の）と共に内容を紹介した。この子供たちさえ、だまってくいいるように見、聞いてくれた。人間の大切なメッセージがここに載せられている。私は涙が止まなかった。

解説:七尾聖書教会牧師

編集後記

今回は皆様にお詫びを申し上げなければなりません。前号に同封しました振替用紙の口座番号が間違っていました。たくさんの方々が郵便局に足を運んでいただき、大変ご迷惑をおかけしました。ここに、心からお詫びを申し上げます。

お手数ですが、改めて正しい口座番号を印刷しました振替用紙を同封しましたので、ご協力をお願い申し上げます。

最後に私も1句

アイドルも 顔負け首相 高人気 (Z.0)

川柳裏表紙

原稿を 棒読みしない 小泉節

国会で首相が、所信表明演説や答弁をするときは、官僚が用意した原稿を棒読みするのが、これまでの慣例だった。ところが小泉首相は、原稿を見ないで自分の信ずる政策を、歯に衣着せぬ絶叫調にぶち上げるのだ。絶叫とは「声を限りに叫ぶこと」だ。

自らを「大変人」と言って憚らない。小泉首相の政治家としての信念が、87%という高い支持率となっている。派閥次元や数の論理でない。首相よ！、今こそ公約を果たせ。

(光男)